



## キャンバスに 変身する楽譜 熊本マリ

ピアノリストにとって手が命だとしたら、紙は財産である。ピアノの楽譜はすべて紙でできていて、バッハ、ベートーベンやショパンなどが残した貴重な音符は、すべてこの楽譜の中にメッセージのように込められている。300年前のバッハが書いたメモディーも現在の紙を通じて、私たちが音楽家によって再現される。

ピアノを習い始めて以来、私の指先が一番接したものはまちがいない、ピアノの鍵盤と楽譜のページである。一年中、ほとんどピアノの練習をしているので、鍵盤はもちろんだのこと、楽譜を見てめぐりながら勉強する。ピアノリストは、コンサートの本番のときは、ほとんど楽譜を使わず暗譜で演奏するが、曲を覚えるまでは、楽譜を読みながら勉強する。

曲によって、音符の大きさは、それぞれ違いますが、あまり小さいと目が譜読みの段階で疲れてしまいます。特にバッハの曲や目には強敵だ！ バッハのインベンションやフーガは、同時にいくつかの旋律が進行するので、簡単そうにみえても、とても複雑なのだ！ 1時間以上こんな楽譜を読んでいると、すぐ頭が痛くなってしまう。

そんなとき、イライラを避けるため、暇つぶしに楽譜にフティ落書きをしてみます。目とか人の顔とか、そのとき描きたいものを描いてしまふのだ。それが意外と楽しい。通常、ピアノの楽譜には、指使いや注意事項を、自分なりに、ペンや鉛筆で書き込んでいる。人によっては真っ白のまま、なにも書かず曲を学ぶ人もいますが、私は、とにかくとどこどこ楽譜に書き込みまくるタイプの方だ。

「やさしく」「レガート」など、いろいろな言葉を日本語、英語、スペイン語で書いている。同じ色のペンで書いたことがまだ改善されていない場合は、色を変えて書き直す。赤、黄、ピンクや緑の色鉛筆やマジックで、上から書き直す。マジックは太くて書きやすく、黒の音符もつぶされずに見るので、利用度が高い。気がつくくと、ペーンは色とりどりの、わ



熊本マリ(くもと・まり) 東京生まれ、5歳よりピアノに親しみ、10歳で家族と共にスペインへ移り住む。75年スペイン王立マドリッド音楽院で水アキン・ソリアノ氏に師事。スペイン青少年音楽コンクール優勝。82年に奨学金を受けてジュリアード音楽院に入学し、サーシャ・ゴロニツキー氏に師事。95年より毎年秋に全国ツアーを行っている。CDは、キングレコードより多数リリース。05年11月に「ショパンのノクターン集・マジュルカの恋」が発売された。著書に「ラ・ビアンスタ〜太陽の門から」など。ホームページはwww.marikumamoto.com

撮影協力=ヒロコソノ プルムエ

けのわからないモダン画のようになっているりするのだ。

あまりにも書き込みをして、書く場所が足りなくなり、2冊目の楽譜が必要になった曲がある。それは、バッハの「ゴールドベルク変奏曲」とムソルグスキーの「展覧会の絵」。2曲とも名曲であり大作である。特にバッハの方は、譜読みだけで2ヶ月くらいかかってしまった。ページをめくる右下の端のあたりはグチャグチャで、角がないページもある。ページの中には、たくさん思い出もある。小さな茶色いシミをみれば、学生時代にこぼした紅茶だ！ と懐かしがったり、スペインの友達の写真や書いてあったり。そのとき使っていた楽譜を見れば、タイムスリップできるのだ。

以前、ローマからマドリッド行き飛行機でトランクがなくなり、その中に入っていた大切なベートーベンのソナタの楽譜を失い、とても悲しかった。お金では取り戻せない、キャンバス楽譜。最近、紫色のペンで書き込みに夢中。

### Let's think together! 地球温暖化を防ぐ私たちの小さな一歩

#### 京都議定書の目標達成へ向け、国際的取り組みの活用を

最近、CDMやJ Iといった言葉を耳にするようになりましたね。「CDM(クリーン開発メカニズム)」は、先進国と開発途上国が共同で温暖化対策事業を実施し、温室効果ガスの削減分を先進国(投資国)が自国の目標達成に利用できるという制度です。同様に、「J I(共同実施)」は先進国が共同で温暖化対策事業を実施し、その削減分を目標達成に利用できるというものの、この



10月にも、国内の33社が出資する「日本温暖化ガス削減基金」がCDMを活用してブラジルで初めて温暖化ガスの排出権を取得したことが報道されました。

日本はすでに世界でもトップクラスの省エネルギー国です。私たち製紙産業もこれまでに培った優れた環境技術を活かし、国際的な取り組みに対して先導的な役割を果たすべく、努力を続けていきます。



次回は2月2日号、やくみつるさんです。

提供 日本製紙連合会 <http://www.jpa.gr.jp>

photo: Yohei Maruyama